

イタリア赤十字社主催のCBRN研修への参加体験

(遠藤 聖、日本集団災害医学会誌 2017;22:245-251)

2018年10月5日 災害医学抄読会 <http://plaza.umin.ac.jp/~GHDNet/circle/>

日本赤十字社は2011年3月11日の東日本大震災の際に、福島第一原発の原子力災害において準備不足をののために救護活動を一次断念し撤退せざるを得なかった。この経験をもとに日本赤十字社は2013年に原子力災害対応専門部署を設置した。

このような情勢の中、筆者である遠藤聖医師はイタリアで行われた”CBRN International Summer School “ItRC” Nuclear and Radiological Emergency Preparedness23- 27 June 2015 Rome, Italy”に日本人としてただ一人参加した。”CBRN”とは Chemical, Biological, Radiological, Nuclear の略である。

2015年の6月23日～27日の5日間で日本赤十字社と世界各国の対応の差を論文に述べている。論文に記載されている日本と比較した国はイタリア赤十字社の体制とオーストリア赤十字社の体制についてである。

以下、論文は日程において何が行われたかと、その時の筆者のメモがかかっている。

イタリアでの CBRN への対応

- ・ CBRN 災害が起こったらイタリアではまず軍隊が対処する。
- ・ イタリア赤十字社は政府と軍隊と非常に密接な関係であり軍隊と同様な対応が可能である。CBRN 災害に対してはイタリア軍と共に医師や看護師、ボランティアと共に行動する。
- ・ イタリア赤十字社の活動は政府と協力しながら資機資材だけでなく手段戦略も提供を行う。
- ・ イタリアで何か汚染が起こった時はまず軍隊、次に消防、警察、そのあとに外国の軍隊、赤十字社、ボランティアが活動する。
- ・ 除染についてはガイドラインが設定されていて、
 - ①汚染された患者のモニタリング。
 - ②被災者のクラス分けをする。
 - ③脱衣、シャワー洗浄などで除染を行う

オーストリアでの CBRN への対応

- ・ オーストリアには専門の研究所があって、CBRN に対応する。
 - ・ 最近では新型インフルエンザやエボラ出血熱などの感染症対策も進んでいる。
- また筆者は災害に応じた基準を作成し、それに応じた個人的防具を作成する重要性を述べている。

筆者はその後 Corpo.Militare にて総合訓練を行った。その感想等を述べている。

Corpo.Militare は日本でいう自衛隊と DMAT のに準ずる位置づけであり、医師看護師は24時間常駐する。特に看護師は特殊な訓練を200時間以上受けている。

総括

日本の赤十字と世界の赤十字との違いは、政府と密接な関係にあるかどうかにある。日本も災害などやテロの可能性は十分に考えられるため国が一丸になって対応できる構造を構築することが最も大事である。